

# 感染症情報 5月27日～6月2日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1,338例(堺市 78例)
②手足口病	930例(堺市 100例)
③溶連菌感染症	663例(堺市 75例)
④ヘルパンギーナ	140例(堺市 19例)
⑤伝染性紅斑	129例(堺市 8例)

府下インフルエンザ定点300医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 192例(堺市 27例)

感染症報告数は前週比4.9%増の3,584件であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で、以下手足口病、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週と比して2%減、堺市は3%増であった。手足口病が府下で20%増、堺市で5%増であった。堺市では定点当たり5.00→5.26であり、警報レベル中である。溶連菌感染症は府下で11%増、堺市で17%増となった。ヘルパンギーナは府下で25%増、堺市で14例→19例となった。伝染性紅斑は府下で14%減、堺市で17例→8例であった。

インフルエンザは府下で前週206例→今回192例で減ったが、堺市では前週18例→今回27例で3週連続で増えている。

麻疹の報告はなかった。

風疹の報告が1例あり(堺市はなし)。年始からの府内累計報告数は116例となった。